

# 1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)																
		法人	区															
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人で入りづらい、スタッフにいてほしいという意見がありどのようにサポートしていくか検討が必要である。</li> <li>・多世代が子育てに関わり養育者を支援していく仕組み作りが必要である。</li> <li>・子どもの育ちの場になっているかという視点が必要である。</li> <li>・子どもが遊びこめるように拠点内に仕切りを作るなどゾーニングできると良い。</li> <li>・来ている親子が離れずに常にセットでいる感じが強いので子同士が親から離れ自由に関わりあえるような工夫が必要である。</li> <li>・拠点が保護者のオアシスになるような雰囲気作りが必要である。</li> <li>・子育て経験を活かし親同士が悩みを解決していく仕組み作りが必要である。</li> </ul>	A	A															
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		B	B															
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A															
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B															
☆アクセスの不便な区民も身近に集う場がある。		A	B															
評価の理由(法人)																		
<p>(主なデータ)</p> <p>1【多様な人を受け入れる場作り】</p> <table border="0"> <tr> <td>年間利用者数</td> <td>30年度 29,101名(121名/日)</td> <td>27年度 28,685名(117名/日)</td> </tr> <tr> <td>父親の利用者数</td> <td>30年度 1,018名(85名/月)</td> <td>27年度 815名(68名/月)</td> </tr> <tr> <td>プレパパ・プレママ利用者数</td> <td>30年度 181名/年</td> <td>27年度 131名/年</td> </tr> <tr> <td>外国人利用者数</td> <td>30年度 697組(19カ国)</td> <td>27年度 538組</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動数</td> <td>30年度 499名(うちシニア 302名)</td> <td>27年度 481名</td> </tr> </table> <p>2【ニーズ把握】</p> <p>30年度こっころに関するアンケート調査&lt;対象:こっころ利用者、区民(乳幼児健診時)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用して良かったと思う事 子どもが自由に遊べる89.7% 子育てに関する情報がたくさんある46.3% 話し相手がいる29.0%</li> <li>・利用しない理由 自宅から遠い 49.0%</li> </ul> <p>&lt;主な取組・30年度参加者数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両親教室後のプレパパ・プレママ見学会 168名/年</li> <li>・BP講座(注1) 46組(4回開催)</li> <li>・お父さんと笑おう 734名/年</li> <li>・こっころくらぶ部活動(注2) 333名参加(36回)</li> <li>・外遊び(行ってみよう保育園等) 154名参加(11回)</li> </ul> <p>・注1 BP講座「親子の絆づくりプログラム」:生後2~6ヶ月のための親子の愛着や仲間作りを目的にした講座</p> <p>・注2 こっころくらぶ部活動(養育者の自主活動):ハンドメイド部、ぱくぱく部、国際交流部、のほほん部、ヒーリング部、ふたご・みつご等</p> <p>(主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハンドメイド部:こっころ、ほ도가やこどもニコニコフェスタ、地域ケアプラザのイベントでの装飾</li> <li>ぱくぱく部:離乳食についてのおしゃべり会</li> <li>国際交流部:地域ケアプラザのお祭りで外国の歌などを披露、お弁当講座、交流会、通訳</li> <li>のほほん部:絵本の読み聞かせ</li> <li>ヒーリング部:ベビーマッサージ、骨盤体操</li> <li>ふたご・みつご:おしゃべり会 等</li> </ul>				年間利用者数	30年度 29,101名(121名/日)	27年度 28,685名(117名/日)	父親の利用者数	30年度 1,018名(85名/月)	27年度 815名(68名/月)	プレパパ・プレママ利用者数	30年度 181名/年	27年度 131名/年	外国人利用者数	30年度 697組(19カ国)	27年度 538組	ボランティア活動数	30年度 499名(うちシニア 302名)	27年度 481名
年間利用者数	30年度 29,101名(121名/日)	27年度 28,685名(117名/日)																
父親の利用者数	30年度 1,018名(85名/月)	27年度 815名(68名/月)																
プレパパ・プレママ利用者数	30年度 181名/年	27年度 131名/年																
外国人利用者数	30年度 697組(19カ国)	27年度 538組																
ボランティア活動数	30年度 499名(うちシニア 302名)	27年度 481名																

## 1【利用者の温かい迎え入れ】

- ①常に笑顔で心がけ、初めて利用する方や1人での利用者には孤立しないよう、利用者同士がつながるようスタッフが積極的に声をかけた。
- ②「1人では拠点に入りづらい」という声をうけ、「はじめてDAY」など1人でも来やすい日を設ける予定である。(2019年度実施予定)
- ③初回利用者の中で希望者に「初めてバッチ」を用意した結果、継続利用者が初回利用者に声をかけたり、初回利用者同士つながるなど効果が出ている。
- ④生花、地域の方による季節ごとの装飾、パパ向け雑誌・外国人向け情報の設置等、利用者がリラックスできるような環境づくりを行っている。

## 2【多様な人を受け入れる場作り】

- ①多様な人が気軽に来所し、子育てに関心を持ってもらうために、学生やシニア、外国籍の方、男性等にボランティアとして活躍してもらっている。その結果、外国籍の方等の参加が増えてきている。
- ②ママ企画(部活動、県人会)などを開催することで、ママ同士の繋がりが深まった。
- ③父親と子どもが楽しい時間を過ごし、父親にとっても利用しやすい居場所作りを目的に、父親の自主企画「お父さんと笑おう」を月1回実施し、「父親同士、子育てや仕事の話が出来てよかった。また参加したい。」という声が多数聞かれ、年間の父親利用者数も増加している。
- ④両親教室後、プレパパ・プレママが拠点の利用につながるよう、こころ見学会を実施した。見学会では、妊娠中から無料で利用できることや産後の情報(BP講座など)を伝えたと、出産前から拠点を利用する人が増えている。
- ⑤外国の方向けに、拠点の利用の仕方をイラストで表現したり、通訳が出来る利用者には「通訳バッチ」を用意したところ、外国の方から利用しやすくなったとの声が上がっている。
- ⑥地域の方にも利用してもらえるよう、自分の成果物を展示し活動をPRできる場を設置したことで、拠点を利用する回数が増え、子どもや親と関わる姿も多く見られている。

## 3【ニーズの把握】

- ①利用者へ日常的にヒヤリングを行い、講座の開催など居場所運営に活かしている。
- ②利用者や地域の担い手にこころの利用に関するアンケートや聞き取りを実施し、ひろばの環境整備やスタッフの対応などについてはひろば掲示等で公表している。
- ③アンケート結果や利用者の声をうけ、新たな企画としてパパ企画の講座や就園に向けての講座、身近な地域での外遊び等を実施した。

## 4【親子の育ちの場の提供】

- ①一対一ではなく、大勢の親子同士で遊べるよう、大型おもちゃ(段ボールハウス、トンネル、プラレール)を設置した。また可動式の棚を設置し、子ども同士が関わり合える空間を設定している。
- ②同じ悩みや趣味を持つ利用者同士が情報交換したり、悩みを軽減出来るようBP講座・こころくらぶ部活動等を実施した。
- ③喧嘩や取り合いなど子ども同士の関わりについて、子どもの育ちの中で大切なことであることを実際の場面をとらえ伝えている。

## ★アクセスの不便な区民に向けての取組

・地域ケアプラザやコミュニティハウス、保育園など地域の資源と連携して、身近な地域で外遊びや講座等の取り組みを実施した結果、身近な地域で親子で遊ぶことが出来てよかった、また近くで開催されるものに参加したいと好評である。

## 評価の理由(区)

- ①両親教室や健診会場などをはじめ、あらゆる場で拠点スタッフが直接周知する機会を設けたことによって、顔が見える関係となり、初回利用へのハードルを下げる事ができた。
- ②両親教室の後にこころ見学会を開催した。また子育てに関するボランティアの相談があった際には、拠点を紹介した。
- ③29年度実施した子育てアンケート結果を拠点と共有し、次年度以降の事業の方向性・計画について検討することができた。
- ④来所するのにアクセスの悪い地域に向け、6か所のつどいの広場や親子サークルなどに相談や遊びの提供ができるよう協力して実施した。結果、それぞれの関係機関につながる親子が増えた。
- ⑤外国人の親子が増えており、親子が孤立することを予防するために、拠点・YOKEと協力し、居場所づくりやチラシの工夫など子育て支援を検討していく予定である。

## 拠点事業としての成果と課題

### (成果)

- ①プレパパ・プレママ、障がいの方、外国の方など多様な方の利用が増えてきている。今後も多様な方への周知および受け入れについて、定例会で意見交換していく。
- ②利用方法などホームページを作り直したことで、利用者数は増加傾向にある。
- ③父親企画のイベントを実施したことにより、父親同士のつながりができ、両親教室やおとわらの日の講師を担うなど活動が広がっている。今後も利用者同士が情報交換や悩みを解決できるようなしなかけを考えていく。

### (課題)

- ①子ども同士が関わり合えるよう、環境整備を行い、利用者にも子ども同士の関わり合い(喧嘩も含め)の大切さを伝え、ひろば以外にも親が実践できるよう、発達に応じた関わり方について理解できるよう伝えていく必要がある。
- ②子ども同士関わり合えるツール(おもちゃ等)、利用者がリラックスできる設備や環境については、今後も工夫していく。
- ③アクセスが不便な利用者に対し、関係機関と協力して今後も外遊びなどの企画を実施していく。

## 振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。

カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。

キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気づき、学ぶ機会を提供する場となっているか。

ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・拠点の相談機能として、イニシアチブをもって拠点のネットワークを用いて支援していく必要性がある。 ・傾聴できるケースと区へつなぐケースの間に拠点の働きがあると良い。 ・養育者の悩みに寄り添い、子どもへの対応の仕方について継続して考えていく必要がある。 ・利用者同士で悩みを共有し、解消できるような仕組み作りも必要である。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		B	A
☆利用者同士のピアカウンセリングが出来ている。		B	B

評価の理由(法人)

<p>(主なデータ)</p> <p>1【気軽に相談できる工夫とスタッフの質の向上に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談件数 28年度 3,586件 29年度 3,900件 30年度 3,513件</li> <li>多い相談項目について ①生活 ②就園 ③発育</li> </ul> <p>2【専門相談員によるミニ講座・個別相談の実施と関係機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門相談:保育士、栄養士、助産師、看護師、保育・教育コンサルジュ、歯科衛生士、保健師</li> <li>専門相談員のミニ講座:離乳食、アレルギー、就園、歯科、がん検診啓発(市民病院)等</li> </ul> <p>☆利用者同士のピアカウンセリング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>父親の悩み:妻とのコミュニケーション、子どもとの関わり方、仕事と育児のバランス等</li> </ul>
<p>1【気軽に相談できる工夫とスタッフの質の向上に向けた取組】</p> <p>①利用者がスタッフに声をかけやすいよう、相談担当のスタッフは目印となるエプロンを着用した。また、ひろばの利用者が多い日にはスタッフの人数を増やしたことで、タイムリーな相談につながった。</p> <p>②スタッフのスキルアップを目指し、傾聴・子どもの発達等に関する研修への参加や、日々のミーティングや専門家を交えた相談内容の振り返りを実施したことで、自信をもって相談に対応できるようになった。</p> <p>2【専門相談員によるミニ講座・個別相談の実施と関係機関との連携】</p> <p>①しつけや子どもの発達など相談が多い項目については、専門相談員の相談日を設け、ミニ講座や個別相談を開催したことで、満足度の高い相談ができた。</p> <p>②他関係機関の連携が必要な場合は、ミーティングで話し合い、区に相談することができた。</p> <p>③幼稚園の就園の相談については地域ケアプラザやコミュニティハウスとのネットワークを活かし、幼稚園入園講座を共催し、入園前の利用者の不安を軽減することが出来た。</p> <p>☆利用者同士のピアカウンセリング</p> <p>①父親企画のイベントの実施により、父親同士の交流の場を提供することが出来た。それによって、父親が抱える悩みを父親同士共有し解決に向けて話し合うことが出来た。</p> <p>②子どもの発達やふたご・みつごの親といった共通の悩みを持つ利用者が会を企画したことで、利用者同士が相談し合う場面をもつことができた。</p>

評価の理由(区)

<p>①区の事業について事前に必要な情報提供をしたり、区で開催する研修について呼びかけを実施した結果、拠点での相談が円滑に行われるようになった。また個人情報の取り扱いについて、定例会などで確認した。</p> <p>②養育支援が必要な場合は、要保護児童対策地域協議会に基づいて個別ケース検討会議に参加を促し、関係機関とのつなぎ、具体的な対応方法や支援の方向性について共有した。</p> <p>☆ふたご・みつごの日等多胎児を育てている親を紹介し、同じ悩みを持つ親同士を結び付けている。</p>
--

拠点事業としての成果と課題

<p>(成果)</p> <p>①スタッフの研修等への参加により、身近な子育てに関する相談に対する対応力が向上した。また、相談内容に応じ、専門相談や子育てパートナーにつなぐ必要がある相談をスタッフが区別し、対応できるようになっている。</p> <p>②同じ悩みを持つ親同士をつなぐことで、親同士のつながりが深まり、会を継続できるよう支援している。</p> <p>(課題)</p> <p>①個性が高く、専門相談や子育てパートナーにつないだほうが良い相談については、スタッフが判断できるよう引き続き質の向上に努める。</p> <p>②発達に悩む方や外国の方、ふたご・みつごなど多様な利用者のピアカウンセリングできる場が定例開催できるよう計画していく。</p>
--

振り返りの視点

<p>ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。</p> <p>イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。</p> <p>ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。</p> <p>エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。</p> <p>オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。</p> <p>カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。</p>
---

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひろばで子どもを見ながら掲示している情報をゆっくり見られるような雰囲気作りが必要である。</li> <li>・様々な場で拠点が子育て情報の収集、発信の場であることを伝えていく必要がある。</li> <li>・利用者が情報収集や発信に積極的に関わられるように検討していく。</li> <li>・情報が少ない障がい児や多胎児、シングルマザーなどの情報も収集し提供していく必要がある。</li> <li>・ホームページをもう少し見やすいように改善する必要がある。</li> </ul>	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B
<b>評価の理由(法人)</b>			
<p>(主なデータ)</p> <p><b>1【ネットワークを活用した情報の収集・提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページアクセス数 30年度 2,300件/月(28年度 1,566件/月)</li> <li>・メールマガジン配信(ほだぴよメール) 月1回配信 30年度末 会員数1,167名</li> </ul> <p><b>2【広く区民に向けて子育て情報を発信】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こっころだより 3,500部/隔月250ヶ所に配布(配布先:子育てサロン・幼稚園・保育園・地域ケアプラザ等)</li> <li>・こっころリーフレット 280部配布/月 (配布先:こんにちは赤ちゃん事業・両親教室等)</li> <li>・区広報掲載 12回/年</li> <li>・ほだぴよマップ 6000部/年(配布先:区内幼稚園16園、区内認可保育園等57園、地域ケアプラザ7か所、こんにちは赤ちゃん訪問員、主任児童委員、子育てサロン25か所、など区内の子育て関係機関・者)</li> <li>・その他 地域のタウン誌(ネットでも掲載)を活用 25,000部/1回(年5~6回発行)</li> </ul> <p>30年度 こっころに関するアンケート調査&lt;対象:こっころ利用者、区民(乳幼児健診時)&gt;                      子育てに関する情報の入手:①友人・知人の口コミ 52.6% ②キーワード検索 42.7% ③HP(区、こっころ) 39.5% ④地域の掲示板・回覧板 24.4%</p>			
<p><b>1.【ネットワークを活用した情報の収集・提供】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子育て支援連絡会などネットワークを活用し、園庭開放や地域の子育て事情、各関係機関で行っている事業などの身近な地域の子育て情報を収集することができた。収集した情報はホームページ・メールマガジン(ほだぴよメール)を活用し、拠点利用が困難な利用者・地域の担い手にも情報が届くように発信している。</li> <li>②利用者の関心の高い幼稚園情報は、各幼稚園を訪問したり、施設長連絡会や子育てパートナー定例会などを通じて隣接区の情報収集にも努め提供し、地域ケアプラザと協力して幼稚園講座を開催し、多くの参加があった。</li> <li>③主任児童委員等が地域で開催している25か所の子育てサロン情報については、開催場所や日時が変更になることがあり、スタッフが適宜子育てサロンを訪問して最新の情報を収集し、提供できる様努めている。</li> </ul> <p><b>2.【広く区民に向けて子育て情報を発信】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ホームページを全面リニューアルし、新着画面や支援者情報など見やすくなったと好評である。1人で来所する方のための利用方法や、イベントの情報・様子を最新でアップし、アクセス数も上がった。</li> <li>②広く区民に情報発信するために広報よこはまへの掲載や、区の地域振興課、区政推進課の事業等、様々な場で拠点が区内の情報収集・提供の場であることを伝えている。</li> </ul> <p><b>3.【情報収集・提供のための環境整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもを遊ばせながら、安心安全に情報を見ることが出来るように、情報コーナーに壁面玩具やソファを設置したところ、利用者アンケートでは約9割の方から「以前より使いやすくなった」と好評である。</li> <li>②幼稚園情報ボード、親子サークル情報ボード・Q&amp;Aコーナー等を作成し、利用者の情報交換に活用されている。</li> <li>③支援者向けの情報交換ボードを設置したところ、支援者自らが情報収集したり、発信したりなど有効活用されている。</li> <li>④DV・ひとり親等の個別性の高い情報についてはトイレ等に設置し、周りの目を気にせず情報を得られるようにしている。</li> <li>⑤外国の方の利用が増加しており、利用しやすい場になるためにイラストややさしい日本語の表示などでわかりやすい情報提供を行っている。</li> </ul>			
<b>評価の理由(区)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>①子育て情報に関するチラシやほだぴよマップ(区内の子育てに関する施設や相談先が掲載されているもの)などを毎年更新・作成し、様々な機会・施設に周知・配布しており、実際の利用につながっている。また、子育て支援連絡会全体会で、効果的な情報発信の仕方について学習会を実施する等、子育て支援者全体で検討する機会を設けた。</li> <li>②子育て支援連絡会全体会やエリア別子育て支援連絡会、ほだぴよ子どもニコニコフェスタなどを通して、拠点の機能を伝えたと、地域の子育てサロンへ拠点の役割が浸透しはじめ、支援者教材の貸出件数が増えている。また、区へ子育て支援に関わりたいという相談があった際も、拠点へつなげるなど、活動の場を紹介している。</li> <li>③家庭訪問や地域の活動の中で、拠点の利用について話題を提供するよう心がけている。また、赤ちゃん教室など親子が集まる場で、お互いに情報交換を行えるよう働きかけをした結果、不安が解消され、利用につながった例も多い。</li> </ul>			

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ①ホームページをリニューアルして拠点の様子を随時発信し、情報の更新を頻繁に行うことで、アクセス数が上がった。
- ②幼稚園など利用者に関心の高い情報交換の場を作ることで、拠点が利用者同士の情報交換の場となっている。
- ③拠点が区の子育てに関する情報収集・情報提供の場であることを発信し続けた結果、子育て支援の担い手から支援者教材の貸出希望が増えたり、いってみよう保育園や幼稚園講座等の共催にもつながった。

(課題)

- ①外国の方への情報提供の仕方(多言語・やさしい日本語・イラスト等)などさらに工夫が必要である。
- ②利用者や子育て支援の担い手が情報収集や発信に積極的に関わられるような仕組みの継続が必要である。
- ③SNSのメリット・デメリットを考慮しながら、効果的な情報発信方法をさらに検討していく。

**振り返りの視点**

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・世代を超えたネットワーク作りが課題。子育ての課題を地域の関係機関で話し合える関係づくりを継続していく。 ・虐待防止の観点からも、相談の入り口となる拠点がネットワークを活かしてどこまで支援していけるかを協議し、進めることが望ましい。	A	A
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		B	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
<b>(主なデータ)</b>			
<b>1.【ネットワークの広がりニーズを活かした取り組み】</b> ①利用者のニーズに応じて、地域ケアプラザと幼稚園講座や父親イベントの開催、地域活動ホームや療育センターと発達に悩む親の交流会を実施した。 ②利用者に自分の体にも関心を持ってもらうことと、医療分野も含め地域全体で子育てしていくことを目指して、市民病院と女性のがんの検診啓発講座を開催し、参加者の検診利用や市民病院での子育て支援情報コーナーの設置につながった。 ③地域の子育て支援の活性化のために、子育て支援連絡会では新たな機関(地域活動ホーム、国際交流ラウンジ、保育園等)に声をかけた結果、参加団体が増加している。今後も引き続き子育て支援連絡会の周知を継続していく。 要保護児童対策地域協議会への参加により、小学校・中学校などネットワークが拡大し、中学生の職業体験の受入等につながった。 ④エリア別子育て支援連絡会では、最近の親子の姿を拠点から地域の子育て支援者に発信し親子の現状の理解を促した。また、子育てしやすいまちづくりを目標に、7エリアごとに地域の特徴や課題について話し合った。アンケートや聞き取りで子育て当事者のニーズを収集し、多世代、多様な親子が交流できるイベントや子育て資源の少ない地域での外遊び等に取り組み、多くの親子の参加があった。 ⑤幼稚園等へ子育て支援連絡会への参加を呼び掛けているが、参加が増えていかない。			
<b>2.【拠点の機能を活かし養育者と地域をつなぐ】</b> ①ネットワークを活かして集めた様々な子育て情報を発信し、利用者はその情報を基に、隣接区を含む地域の資源の利用につながっている。 ②親子のつどいの広場・主任児童委員・区役所と「ほどがやこどもニコニコフェスタ」を共催し、地域の子育て資源を養育者に提供すると共に、支援者同士のネットワークを深めることが出来た。			
<b>評価の理由(区)</b>			
①エリア別子育て支援連絡会では、地域の課題解決にむけ、事務局(拠点、区、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ)で、ネットワークが活用できるよう事前協議の場を持っている。エリア別子育て支援連絡会の当日には、保健師や地域の関係機関が感じているエリアの課題を出し合い、関係者・機関・多世代等全員で解決策を考えられるよう成熟してきている。 ②エリア別子育て支援連絡会やエリア別要保護児童対策地域協議会に拠点も参加することで、各関係機関の役割を知り、地域の親子を適切な機関へ紹介・案内できるようになっている。			
<b>拠点事業としての成果と課題</b>			
<b>(成果)</b>			
①子育て支援連絡会全体会、エリア別子育て支援連絡会を開催し、地域の支援者とつながったことで、多角的に地域の親子のニーズを捉え、エリアでの外遊びや国際理解の研修など課題解決に向けての取り組みを行うことができた。 ②要保護児童対策地域協議会に参加することで小学校・中学校、障がい児、外国人の関連施設等とも繋がりができ、地域の親子を適切な機関へ紹介・案内ができている。			
<b>(課題)</b>			
①エリア別子育て支援連絡会等で、親子の現状を継続して発信し、ネットワークを活用し課題解決を行えるよう、幼稚園等のネットワークのメンバーを広げていく必要がある。			
<b>振り返りの視点</b>			
ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。 イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。 ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。 エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。 オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。			

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	・より多くの世代に向けて子育て支援の大切さを伝え、子育てを見守る人を増やしていく。支援者を増やし養育者自身も子育て支援に関わっていけるような仕組みづくりを進めていく。 ・プレパパ、プレママに対する体験型の支援が重要である。気軽な相談の場として活用できることが望ましい。 ・妊娠前以前の学生の育児体験も大切なので、定着するための工夫をしていけると良い。	B	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	B
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

1【地域の担い手の支援】

- ・ボランティア述べ活動数 30年度 499名 活動者数32名 新規登録17名
- ・ボランティア交流会 30年度 13回/年 62名参加
- ・親子サークル登録数 30年度 32団体 ( 27年度:26団体 28年度:27団体 29年度:30団体 )
- ・親子サークル連絡会 30年度 1回/年 46名参加
- ・支援者教材貸出数 30年度 456回/年 登録者数 157( 団体 82 個人登録 75 )
- ・講演会 28年度:「多世代交流について」(塩谷香氏)  
 29年度:「保土ヶ谷区子育てアンケートの結果から見えてきたこと」(田中孝司氏)  
 30年度:「あたりまえが難しい親たち&子どもたち」(土谷みち子氏)  
 31年度:「伝えたい」が「伝わる」チラシと広報」(斎藤百合恵氏)

2【養育者や子育て支援活動に関心のある方を地域につなぐ】

- ・こっころくらぶ部活動 36回/年 333名参加 (うち地域での活動 7回)

3【子育てしやすいまち作りへの提案】

- ・29年度 区子育てアンケート 「9割以上の方が子育てを楽しんでいると感じているが、約2割の方が孤立していると感じている」アンケートからわかった母親の孤立感を和らげる4つのこと  
 ①パパとママのより良いコミュニケーション②仲間づくり③親子のコミュニケーション④地域の方々とのつながり

1【地域の担い手の支援】

- ①29年度に区で実施した子育てアンケートの結果分析より見えた課題から「子育ての現状」「情報提供の仕方」をテーマにした支援者向け講演会やボランティア交流会を開催した結果、「現代の親子の背景が理解できた」「チラシの作り方の参考になった」等の意見が聞かれた。
- ②支援者が抱える悩みや課題を捉えるために、子育てサロンや親と子のつどいの広場を訪問し、支援者の声を聴き、助言することができた。また、その際に支援者と顔が繋がりが、相談利用につながった。
- ③「親子サークル」の情報交換の場の提供や、「親子サークル」立ち上げへの支援を行い、利用者の仲間づくりに向けた自主的な活動を応援することが出来た。

2【養育者や子育て支援活動に関心のある方を地域につなぐ】

- ①同じ趣味等でつながる養育者のグループ(こっころくらぶ部活動等)を地域ケアプラザでの演奏会や外国語の絵本の読み聞かせなど地域の活動につないだ。
- ②子育て支援活動に関心のある方に地域の子育て資源や子育て支援活動について伝え、希望に応じて活動につなげた結果、親と子のつどいの広場など子育て支援施設のボランティアとして活動するようになった。

3【子育てしやすいまちづくりへの提案】

- ①身近な地域で安心して子育てが出来る地域作りを目指して、区の地域振興課や区政推進課の会議や講座など、子育て関係以外の場(ほだがや楽考、デザインセミナー、おやじの会、連合町内会会議他)にも積極的に参加し、子育ての現状や子育て支援の必要性を伝えた。
- ②保土ヶ谷区地域福祉保健計画「ほっとなまちづくり」推進会議に参加し、区全域で子育て支援への関心が高まるように、子育ての課題や地域で親子を見守ることの大切さを伝えた。

4【プレパパ・プレママ、学生と子育て当事者の交流】

- ①両親教室後のプレパパ・プレママ拠点見学会で赤ちゃんとの触れ合いや利用者との交流の場を設定し、今後の施設利用を促した。また、ほだがやこどもニコニコフェスタにおいて、沐浴体験等育児体験のできる場を設定した結果、プレパパ、プレママの利用者が増えた。
- ②学生ボランティアや中学生等の職業体験を受入れ、学生が子どもや利用者と関わる機会を作り、子育てに関心を持つ場となった。



6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点に來れない利用者にも出張説明会など周知活動をしていく事で、会員登録につなげる必要がある。</li> <li>・地域により会員種別に偏りがあるため、コーディネートの結果、活動につながらない提供会員には他のさまざまな活動を提案していく。</li> <li>・提供会員のサポートの質を担保していくことが必要である。</li> <li>・親がリフレッシュで利用することを躊躇しないような啓発が必要である。</li> <li>・障がい児の利用の需要があるので、可能な限り受け入れをしていけるような提供会員への啓発等の取組が市として必要である。</li> </ul>	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		B	B
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		B	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
<b>評価の理由(法人)</b>			
<p>(主なデータ)</p> <p><b>1【周知活動と提供会員拡大に向けての取組】</b>                      会員数                      30年度 会員数 593名 (利用会員468名 提供会員89名 両方会員36名)                      27年度 会員数 394名 (利用会員296名 提供会員66名 両方会員32名)                      活動件数                      30年度 896件                      27年度 736件                      ・広報誌配布 600部/年3回 特別号3000部/年                      30年度こころに関するアンケート調査 子育てサポートシステムを知っているか?知っている 68.9%(H28 83%) 知らない17.4%(H28 15%)</p> <p><b>2【利用しやすくする為の取組】</b>                      30年度 ・入会説明会 13回 ・個別入会説明会 36回 ・出張入会説明会 16回 ・ひろば預かり 54件(28年度:35件 29年度:47件)</p> <p><b>3【活動の継続と質の向上の為の取組】</b>                      30年度 ・提供会員・利用会員との個別懇談会(あまちゃミーティング) 25回/年                      ・研修会 41名参加(年1回) ・地域交流会(エリアトーク) 18名参加(年3回) ・交流会 16名参加(年1回)                      ・みまもり隊活動 45名参加(年41回) ・提供会員と話そう 12回/年</p> <p><b>4【利用相談と情報提供】</b>                      相談事例 外国の方、障がいの方の預かり依頼、出産等緊急時の依頼</p>			

**1【周知活動と提供会員拡大に向けての取組】**

- ①ホームページや会報誌、子育て関連イベント、子育て支援連絡会で子育てサポートシステムのしくみの周知をした。
- ②会員拡大に向けて子育てサポートシステムのチラシをリニューアルし、区内の小学校(21校)、保育園・幼稚園(54ヶ所)に配布した結果、利用会員・提供会員が増加した。
- ③ひろばを利用している親子に向け、こっころのひろばで提供会員自ら周知活動(提供会員と話そう)を実施したことで、入会説明会に参加しやすい体制を作ることが出来た。

**2【利用しやすくする為の取組】**

- ①定期的な入会説明会(平日・土曜)の他に、必要に応じ個別入会説明会を実施するなど個に合った対応をしている。
- ②親と子のつどいの広場や拠点から離れた地域の子育て関連施設、サロンなどで出張入会説明会を実施し、会員登録や親と子のつどいの広場での預かりにつながった。
- ③27年度から、ひろばでの「お試し預かり月間」(年1回)を設定し、29年度から掲示等で分かりやすくPRしたことでリフレッシュなどの利用が増え、その後の地域での活動につながった。
- ④利用者の声をホームページやひろばの掲示、会報誌等で掲載し啓発を行い、リフレッシュ利用の促進に努めた。
- ⑤件数は少ないが、障がい児を育てた経験のある利用者が提供会員として登録しており、一部ではあるが、障がいのある子どもの預かりにつながっている。
- ⑥外国の方の利用が増加しているため、入会説明については、国際交流ラウンジの通訳支援を活用し対応している。

**3【活動の継続と質の向上の為の取組】**

- ①毎年活動グッズ(書類入れ・印鑑ホルダー・緊急連絡先入り名札等)を配布し、個人情報の流出防止に努めている。
- ②交流会やエリア懇談会(エリアトーク)、提供・両方会員との個別懇談会(あまちゃミーティング)などを実施し、提供・両方会員のニーズ把握に努めた。提供会員のニーズから、子どもとの関わり方についての研修会を実施し、今後の活動意欲につながったという声があった。
- ③提供・両方会員の活動の場として、みまもりたい活動(イベント時の子どもの見守り)を企画し、登録のみで活動していない提供会員に活動してもらう機会を設けた。
- ④事前打ち合わせシートに新たに課題となっているSNS等の個人情報取り扱いについての記載を入れ、個人情報保護の意識付けを行った。

**4【利用相談し情報提供】**

**評価の理由(区)**

- ①子どもを預けることの大切さ・必要性、孤立している親子の現状について、赤ちゃん教室、母子訪問、健診、保育園、幼稚園園長会や校長会など様々な世代へ周知する場を設け、子育てサポートシステムについて理解を得られるよう心がけている。
- ②拠点での出張子育てサポートシステムの説明会の実施にむけ、近隣に住む親子に対し、周知を心がけている
- ③子育てサポートシステムに関する研修開催時は、研修時間が長く、会場の確保が困難なため、調整に協力している。
- ④子育てサポートシステムの提供会員より情報提供があった場合には、個人情報に留意しながら個別に対応を行っている。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ①ひろばでの「お試し預かり月間」を設置したことで、他の方の目があるという安心感があり、ひろば預かりが年々増加している。また、提供会員で初めて預かりを経験する方がお試し預かりを経験することで、預かりに対する不安の軽減につながった。
- ②子育てパートナーとの連携により、利用者のニーズに合った支援につなげるなど相談を多角的にみるようになってきている。

(課題)

- ①提供会員・利用会員のニーズをアンケートやエリア懇談会、個別懇談会で把握しているが、課題の分析が出来ていないため、今後、対策を検討していく。
- ②利用が増加している外国の方や、障がい児(障がいの疑いのある方を含む)のコーディネート等については、地域の社会資源である地域活動ホームや国際交流ラウンジと協力しながら検討していく。
- ③コーディネートの段階で、提供会員、利用会員とスムーズに連絡を取ることが出来ないため、SNSの活用等、個人情報の流出に留意しながらの連絡方法について検討していく。
- ④提供会員・利用会員ともに写真・SNS等個人情報の取り扱い等については、引き続き注意を呼び掛けていく必要がある。
- ⑤活動内容として、早の送迎や下校後の預かりが多く、リフレッシュのための利用は少ない。ニーズにあった預かりの在り方

**振り返りの視点**

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報を会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	/	C	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		B	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	A

評価の理由(法人)

**(主なデータ)**  
**1【利用者支援事業の周知】**  
 28年度こころ利用者アンケート 子育てパートナー (拠点)知っている 33% 知らない 66%  
 30年度こころに関するアンケート調査 子育てパートナー (拠点)知っている 50% 知らない 37%  
 (区) 知っている44% 知らない48%  
 子育て支援連絡会・支援者アンケート 子育てパートナー 知っている 52% 知らない 48%

**2【個別相談】**  
 ①平成28年度実績②平成29年度実績③平成30年度実績  
 ・相談対応 ①392件 ②343件 ③335件  
 ・周知活動 ①34件 ②24件 ③38件  
 ・出張相談 ①4件 ②30件 ③28件  
 ・電話相談 ①26件 ②30件 ③41件  
 ・相談内容(30年度)①子どもの発育・発達 29.2% ②親自身25.1% ③子どもの生活について14.9% (上位3位3年間で変化なし) ④就園・就学12.1% ⑤制度サービス4.9% ⑥子どものしつけ4.7% その他:子どもの健康・親の仕事・地域情報・経済問題

**1【利用者支援事業の周知】**  
 ①ネットワーク機能を活用して支援者に周知し、個人情報に留意しながら必要時の見守り等の連携をしている。  
 ②子育てパートナーを知らないと回答した方が6割(28年度)であったため、拠点ホームページ・拠点通信・区版広報紙などで事業の説明や子育てパートナーの紹介をした。区民祭り・合同育児講座・各地域ケアプラザのイベント、30年度から区の4ヶ月健診時にチラシや連絡先の入ったマグネットバーの配布により、子育てパートナーの知名度は上がっている。しかし周知率は5割程度(30年度)であるため、引き続き周知は必要である。  
 ③利用者が相談しやすい環境づくりとして、子育てパートナーについてひろば掲示をしたり、親と子のつどいのひろば巡回時やイベント時に直接伝えたり、ミニ講座を開き普段から顔見知りになることを心掛けた。

**2【個別相談】**  
 ①利用者の相談には丁寧に傾聴、ニーズを把握、主体性を尊重した対応を行った。  
 ②必要な情報提供ができるように、地域の関連機関を訪問し情報の共有を行った。また拠点のネットワークを活かし地域情報を集め常に新しい情報が提供できるようにした。  
 ③専門的な対応を必要とする相談には、専門相談に繋げたり区や関係機関に紹介・仲介をしたりしている。また区とは月1回の定例会で対応についての共有・役割分担をしている。必要時、タイムリーに担当保健師と連絡を取り合い対応を協議している。  
 ③適切な支援につなげるために、傾聴・ひとり親サポート・DV・乳幼児の発達・障害・メンタルヘルス・虐待・外国人対応に関する研修会に参加しスキルアップに努めた。

**3【地域との連携】**  
 ①子育て支援連絡会(全体会・エリア別)や要保護児童対策地域協議会に出席し情報の収集・提供を行い関係性の強化につながっている。  
 ②29年度より区内の親と子のつどいの広場や地域での子育てサロンで出張相談を行い、顔の見える関係づくりに努めた。

評価の理由(区)

①4か月児健診時に子育てパートナーが直接周知する機会を設けたことにより顔がつながり、その後の相談につながりやすくなったが、区民への知名度は半数のため、さらに周知していく必要がある。  
 ②定例会で相談内容について共有し、方針について確認している。また要保護児童対策地域協議会の対象者については、子育てパートナーより地区担当と個別に情報共有し、具体的な支援の方法について検討したり、区の窓口で直接つなげ、タイムリーに支援が出来るように連携している。  
 ③子育てパートナーが赤ちゃん教室など地域に直接出向いて、周知が出来るよう調整を行った。  
 ④拠点が遊びの場であるだけでなく、子育てに関する相談ができる場であることをあらゆる機会を捉え周知したことで、ひろばでの相談や子育てパートナーへの相談につながった。

**拠点事業としての成果と課題**

(成果)

- ①妊娠期からつながるよう、母親教室、4か月児健診等、頻繁に区役所で周知することで、子育てパートナーの認知度は高まっている。
- ②地域の関係機関へ出向いたり、一緒に事業を行うことで、関係機関とのつながりが深まり、新たな情報の収集・提供や、子育てパートナーへの相談につながっている。
- ③日々の振り返りや対応の検討をすることによって、相談者を継続的に見守ることが出来ている。

(課題)

- ①拠点利用者の利用サイクルが1~2年と短く、常に周知の必要性があるため、より効果のある周知方法を検討していく。
- ②関係機関からつながった相談については、継続的な支援となるよう情報共有を図っていく必要がある。
- ③相談が多岐に渡っているため、新たな繋ぎ先との関係づくりと新たな取組を視野に入れて事業を行っていく。
- ④利用者支援における相談増加や関係機関への出張相談もっており、子育てパートナー一人体制では対応しきれっていない。
- ⑤拠点が相談できる施設であるという認識が低いため、子育てパートナーやひろばでの相談事業について引き続き周知を行っていく。

**振り返りの視点**

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。  
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。